

私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
「生体内の微小環境情報に基づいた物性制御による
環境応答型インテリジェントナノ DDS の創成」
成果発表会報告書

日時:2018 年 6 月 16 日(土) 13:30～17:00

会場:京都薬科大学 愛学ホール(A31 講義室)

参加者:41 名(職員 22 名、学部・大学院生 16 名、その他 3 名)

2018 年 6 月 18 日(土)に本学愛学ホールにて私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「生体内の微小環境情報に基づいた物性制御による環境応答型インテリジェントナノ DDS の創成」の成果発表会を開催しました。本プロジェクトは、平成 25 年度から 5 年間の計画で研究活動が実施され、本年 3 月末で終了しました。本成果発表会では、11 名の研究参加者が 5 年間の研究成果について口述発表を行いました。

当日は 41 名の参加者のもと、活発な質疑応答が行われ、盛会のうちに終了しました。内容的にも、多くの興味深い研究成果が報告され、また一部は共同研究として、さらには現在進行中の研究も紹介されました。生体内の微小環境情報の解析やそれらの情報に基づくインテリジェントナノ DDS の創成に関する研究を進める上での研究基盤の形成という目的は、本事業において十分に果たせたものと考えております。今後も、本研究基盤のもと、さらなる研究の発展が期待できるものと思われま。

【プログラム】

開会の挨拶 後藤直正 学長

テーマ 1 「疾患微小環境の特異的特性の探索」

司会：加藤伸一

加藤伸一（薬物治療学分野）

「炎症性腸疾患および大腸炎関連がんの病態における腸管マクロファージに発現する NOX1/NADPH oxidase および TRPV4 の役割」

大矢 進（名古屋市立大学大学院医学研究科 薬理学分野）
「炎症性疾患の創薬標的としてのイオンチャンネル」

林 直樹（微生物・感染制御学分野）
「腸管微小環境モデルを用いた緑膿菌によるトランスロケーション機構の解析」

テーマ2「微小環境応答性インテリジェントナノ DDS の開発」 司会：山本 昌

勝見英正（薬剤学分野）
「機能性ナノ粒子の DDS 開発によるがん転移治療戦略」

武上茂彦（薬品分析学分野）
「温度応答性脂質ナノエマルジョンおよびイオン液体サブミクロン粒子の開発に関する NMR 研究」

小暮健太郎（徳島大学大学院医歯薬研究部（薬学域）衛生薬学分野）
「微小環境応答性インテリジェントナノ DDS の開発」

濱 進（薬品物理化学分野）
「微小環境に応答するリポソーム型ナノ DDS の開発」

テーマ3「疾患微小環境におけるナノ DDS の機能評価」 司会：藤室雅弘

藤室雅弘（細胞生物学分野）
「B 細胞性リンパ腫に対する抗腫瘍剤の探索と B 型肝炎ウイルス粒子（HBV-VLP）の DDS への応用」

西口工司（臨床薬学分野）
「がん微小環境が及ぼす抗がん剤耐性の増強とそのメカニズムの解明」

齊藤洋平（生化学分野）
「がん微小環境における熱ショックタンパクの発現制御機構および機能の解明と評価系の構築」

長澤一樹（衛生化学分野）
「白金系抗がん剤オキサリプラチンのリポソーム製剤化に伴う副作用発現プロファイルの変化」

閉会の挨拶 研究代表 加藤伸一



後藤直正 学長



加藤伸一 研究代表



大矢 進



林 直樹



山本 昌



勝見英正



武上茂彦



小暮健太郎



濱 進



藤室雅弘



西口工司



齊藤洋平



長澤一樹